

7 July 2013

7 July 2013

Public Relations SAMEGAWA

7

July 2013
第711号
平成25年7月1日発行
(毎月1日発行)

[広報]

Public Relations SAMEGAWA



平成25年7月1日発行 (毎月1日発行)
第711号 (昭和27年9月創刊)

発行/堀島貞則川村 編集/鮫川村総合企画協議会
〒963-8401 福島県東白川郡鮫川村大字赤坂中野字新道 39 番地 5

[特集] 強くうつくしく生きる「ハンサム・ウーマン」

さめがわの輝く女性たち

さめがわ
Public Relations SAMEGAWA

7 July 2013



結婚しました

Happy File_06 Wedding

本郷 聡さん 苑可さん

西山字落合/平成25年5月挙式

- 奥様の出身地はどちらですか? ... 埴町です。鮫川村は少し寒いですね。
- 2人が知り合ったきっかけは? ... 職場が同じで、そこでの交流会がきっかけで話すようになりました。
- 出会ったときのお互いの第一印象は? ... (夫→妻) 小さくて静かな人。(妻→夫) 明るくて面白い人
- 子どもは何人ほしいですか? ... 3人ほしいですね。9月に長男が生まれるので、できれば次は女の子がいいですね。3人目はどちらでも。
- 理想の家庭は? ... 笑顔が絶えない明るい家庭が理想です。子どもを連れてキャンプやバーベキューをしたり、遊園地に行ったりしたいです。

こちら 村長室

▼「心に太陽を持って、唇に唄を持って。そうすりゃ何が来ようと平気じゃないか。」
どんな苦しいときだって、それが明るくしてくれる。心に太陽を、唇に唄を持って。私は少年時代にこの言葉を呪文のように口にして、苦しいとき、悲しいとき、自分を慰め奮い立たせてきたものです。▼誰の言葉なのか気になり調べてみました。ドイツの詩人・フライシュレンの詩の一節だったのです。正しくは、「心に太陽を持って。嵐が吹こうが、雪が降ろうが、天には雲、地には争いが絶えなからうが。心に太陽を持って、そうすりゃ何が来ようと平気じゃないか。どんな暗い日だってそれが明るくしてくれる。(以下、省略)」
▼私は今改めてこの言葉を唱えたいと思うのです。原発事故以来、暗くつらい日々が続きますが、村や村民の皆さまのために何をすべきなのかを考え、未来を信じて一日も早い復興を目指していきます。

大樂勝弘